

世田谷9年教育

教職員との連携を深める

世田谷区立給田小学校 学校運営委員会通信

議題

- 1 学校長より
 - ・「コミュニティ・スクール推進協議会」（8月5日）の報告
 - ・「第5回世田谷区教育フォーラム」（8月6日・7日）の報告
 - ・職員会議の報告
- 2 委員より
 - ・サマースクール・図書室開放の報告
- 3 今後の予定
 - ・ボランティアの組織作りについて
 - ・同窓会立ち上げについて
 - ・「学校運営委員会通信」第5号発行
- 4 その他
 - ・学校要覧の改訂についての報告
 - ・ホームページのリニューアルについての報告

出席者

井上、田中(龍)、清水、岡本、若林、竹越、土屋、多田、土橋、安斎、鈴木

参観者(教育実習生)

井上さん、内田君、長谷川君

9月9日 校長室にて第5回学校運営委員会が行われました。

今回は、実習中の東京都立大学学生3名も同席しました。

最初に土橋校長より、実習生の紹介があり、「コミュニティ・スクール推進協議会滋養大会」、「第5回世田谷区教育フォーラム」、職員会議で話した内容等についての報告がありました。

次に委員より、サマースクール・図書室開放の報告がありました。

今年のサマースクールでは、講師やボランティアの方々に地域運営学校のビジョンやサマースクールの趣旨を改めて説明し、子どもたちとの関わりをなるべく多くもっていただくようお願いをいたしました。ボランティアの方々と子どもたちが、「夏休み」について話をする時間を作ったさうな講座もありました。また、今回自分のクラスの児童が、どの講座に参加しているかがわかるような名簿を作成し先生に

配布しました。このことにより、先生方がクラス以外の場で生き生きと活動する子どもたちの姿を参観することができました。

また、高学年の児童の参加が少ないので、「9年教育」が始まるのを機に、「中学校の部活」を体験できるように講座をつくってはどうか、との意見も出されました。

図書室開放には、延べ351人の利用があり、中にはお子さんと一緒に本を読む保護者の方もいらっしゃいました。また、夏休み中に図書室の本を16冊借りた児童もいました。

今後の予定として、現在行われているさまざまなボランティア活動を把握する組織を作る必要があることや、50周年に向けて同窓会立ち上げの準備をしていくことなどが話題に上りました。

学校運営委員会のビジョンと教職員による教育活動が繋がっていくことを視野に入れて、組織的に取り組んでいく必要があることを確認しました。

先生方と学校運営委員との

「フリー・トーキングの会」

去る8月26日(木)、学校運営委員と本校教職員との初めてのフリー・トーキングの会が行われました。

地域運営学校4年目を迎えましたが、教職員の中でも地域運営学校について不明な点もまだまだありました。このフリー・トーキングの会は、終始和やかな雰囲気の中、地域運営学校の理解を深めるとともに運営委員と教職員とをつなぐよい機会となりました。

とするような話もありましたが、「特定の方を名指しでどうの」ということはありませんよ」と追加説明があり、教職員一同から笑いが起こる場面もありました。

最後に「これからは先生の出番です」との激励とともに、「教職員にとつてのコミュニティ・スクール」を意識しながら実践を行っていくことの必要性についての話で終わりました。

お互いの自己紹介のあと、運営委員から、8月5日に滋賀で行われた「コミュニティ・スクール推進協議会」でのプレゼンがありました(内容は第4号に記載)。本校の地域運営学校の「3つの指標」がどのような意味をもっているのか、また、今までの成果や今後の課題などがまとめられたプレゼンを聞きながら、教職員にとつて自分たちの実践は「地域運営学校」としてどうだったかという視点で振り返ることができました。

次に委員長から、「学校運営協議会制度」の法的位置付けや、また、その制度に照らし合わせながら、運営委員会が本校にとつてどのような役割を果たそうとしているのか、などの説明がありました。「人事にかかわる意見も言える」など、教職員にとつてはドキッ



出席者：運営委員7名
教職員20名(校長先生、副校長先生含む)

そのあとは、文字どおりフリー・トーキングの会となり、職員から「地域運営学校としての給田小学校」について、日ごろから感じていることや質問等が出され、その都度、委員長から丁寧な説明がありました。

今回の会を通して、運営委員の、子どもや教職員への温かいまなざしと「地域運営学校」給田小への熱い思いを感じました。また、本校教職員も、運営委員とともに同じ方向を見据えて実践を積んでいくという視野の広がりをもてたことは、大きな成果だったと感じています。

(副校長 安斉和樹)

教えて！
井上先生

「世田谷9年教育」

こんな言葉を聞いたことがありますか？



「第5回 世田谷区教育フォーラム」

の2日目（8月7日）の全体会は、「義務教育9年間に責任をもった学校運営」がテーマでした。壇上には、区立小・中学校の校長先生が勢揃いし、9年教育を一緒に進める小・中学校のグループごとに、グループの名前やシンボルマーク、教育目標などが発表されました。けれども、保護者や地域住民の中には、何がどのように変わるのか、まだ十分には理解されていないように思われます。そこで今回は、井上先生に「9年教育」について、お話しただきます。

Q.なぜ、今「9年教育」なのですか？

平成19年に「学校教育法」が改正され、小学校と中学校でそれぞれに定められていた教育の目的や目標が、「義務教育」という視点で統一されたことが契機です。小学校が6年間、中学校が3年間であることはこれまでと同じですが、教育の目的や目標は「9年間をひとまとまり」として考えましようというところなのです。来年度から全国の小学校で新しい学習指導要領が実施されますが、それにあわせて世田谷区では、すべての区立小学校で「世田谷

9年教育」が試行されます。

なお、「世田谷9年教育」については、教育委員会が「世田谷9年教育」の推進に向けた基本的な方針（平成22年4月）という文書を公にしていますので、一読をお薦めいたします（区のホームページからダウンロードできます）。

Q.「9年間をひとまとまり」とすることって、どんなメリットがあるのですか？

私たちは長年の習慣で、小学校は6年・中学校は3年とイメージしがちですが、心身の成長も勉強の内容も、6年と3年で線を引くよりも、9年というスパンで考えた方がよい場合があります。みなさんは、「中一ギャップ」という言葉を耳にされたことがありますせんか？ 中学生になったばかりの1年生が、小学校時代とは異なる中学校の生活や学習に馴染めずに、壁にぶつかってしまつ問題です。さきに紹介した教育委員会の文書では、そうした問題に対して、例えば、「小学校の後半から中学校の前半を用途とした、小学校と中学校の円滑な接続を図るためのプログラムを作成し、教育活動を進める」「プログラムは、各教科や領域に

焦点を当てて具体的な単元系統表など

の中で示すとともに、区立小・中学校の各グループや、区立小・中学校の教育研究会の協力を得て開発していく」のように、具体的な行動計画が示されています。

Q.「学舎」というグループがピンとこないのですが・・・

「9年間をひとまとまり」とする教育を実現するためには、小中一貫の私立学校のように、小1から中3まで同じキャンパスで学ぶのが近道かもしれませんが、でも、すべての公立学校でそれを実現するのは難しいことです。

世田谷区は、中学校区をベースに小・中学校のグループをつくり、相互の連携を深めながら「9年教育」を進めていくとしています。グループに「学舎」という名前をつけたり、シンボルマークをつくらしたりしているのは、グループの一体感を高めるためと思われ

れます。

Q. 給田小は、「温知学舎（上祖師谷中・鳥山小・千歳小・給田小）」と、「鳥山学舎（鳥山中・武蔵丘小・鳥山北小・給田小）」という2つのグループに属するそうですが、それぞれうまくいくのでしょうか？

おんちがくしゃ からすやまがくしゃ 温知学舎と鳥山学舎



温知学舎・発足式 8月27日

8月下旬、「温知学舎」と「鳥山学舎」それぞれの発足式と合同研修会が行われ、給田小の教職員は2つのグループにわかれて参加しました。「9年教育」のスタートに際して感じたことは、私たち教師が広い視野をもって、教育を考え、活動していかなければならないということです。自分のクラス、学年という枠組みだけではなく、「義務教育の9年間」でどのように子どもたちを育てていくのか、という視点が重要になります。さらに言えば、給田小自体も、これまで以上に、近隣の小学校、そして中学校へと開かれていかなければなりません。

当日は、中学生の笑顔（小学校時代の面影はありますが、ずいぶん大人っぽくなりました）に包まれ、「学舎」の先生方との意見交換の中で、「小学校での学びを9年間という時間軸で考えていくことの意義」を実感する1日となりました。給田小は、当面、2つの「学舎」に属することになります。具体的な関わり方を考えると、そこには克服しなくてはならない課題がたくさんありますが、教職員の英知を結集して、取り組んでいきたいと考えています。

（校長 十橋 穂）
鳥山学舎・合同研修会 8月30日
鳥山中にて

第13回アドベンチャー多摩川

特別参加の東京都市大チーム



毎年、夏休み最後の日曜日、アドベンチャー多摩川実行委員会と世田谷区教育委員会主催で開催されています。「世田谷の自然と多摩川への親しみ愛着を高める」ことを目的として、自作のいかだを自分たちで漕いで多摩川を下ります。参加できるのは小学4年～中学生。「世田谷9年教育」の取り組みが進めば、小・中学共同のチームの参加が増えるかもしれませんね。

給田小の卒業生は、これまででも上祖師谷中と烏山中に分かれて進学してまいりましたので、現状では2つのグループに属するのも仕方がないこともかもしれません。おそらく、卒業生が1つの区立学校に進学するようなグループに比べると難しい問題もでてくるでしょう。けれども、「世田谷9年教育」はすべての区立学校で世田谷の子どもたちにならわしい教育の質を担保しなくてはならないはずですから、先生方にはがんばっていただかななくてはなりません。私たちも、しっかりとサポートしていきたいと思います。

Q、「9年教育」と「地域運営学校」とはどんな関連があるのですか？

少し込み入ってきたので、整理が必要ですね。「世田谷9年教育」の推

進に向けた基本的な方針」によれば、「世田谷9年教育」の柱は3つあって、1つめがカリキュラム、2つめが学校運営、3つめが教職員の研修・研究及び学校への支援です。

「1」までお話ししてきたことは、主としてカリキュラムに関わることから「つまり、これからは「9年間をひとまとまり」とした教育活動が実施される、ということ」でした。それに対して、「地域運営学校」は2つめの柱の学校運営に関わるテーマです。世田谷区は、これまでも「地域とともに子どもを育てる教育」を掲げ、地域運営学校の拡充に取り組んできました。そうした方向性で、「9年教育」という視点が加わって、近隣の小・中学校で一体となつて、義務教育の9年間に責任をもつた学校運営がめざされていると理解されます。

Q、学校ごとに指定される「地域運営学校」と、近隣の学校とグループで取り組む「9年教育」を同時に進めることで、めざす方向がぶれませんか？

確かに、それが「何をめざしたもののなのか」がわからなくなってしまうと、つまみ食いになる可能性はあります。でも、「地域運営学校」は「保護者や地域住民が学校運営に参画すること」、「9年教育」は「9年間をひとまとまり」として義務教育を考へる」と「2つでありながら、この2つを同時に進めらわれない」といっわけではありま

せん。

ただ、グループに地域運営学校が複数あり、それぞれの学校運営委員会の方針が異なるような場合は、歩調が乱れてしまうこともあるので、十分なコミュニケーションが欠かせません。ついでに申し上げれば、給田小の「地域運営学校としての3つのビジョン」は、給田小だけにしか当てはまらないというものではありません。グループで9年教育を推進するためにも有益な「ビジョン」あるいは、指標（である）と個人的には考えています。

Q、「9年教育」に保護者や地域住民はどのように関わってほしいのか？

保護者・地域住民のみならずには小学生・中学生という見方だけでなくこの地域で15歳までどんな子どもに育てほしいのか、という見通しがこれ以上求められます。

「1」のことについては、教職員よりもむしろ、みなさまの方が馴染みやすいのではないのでしょうか。と言つても毎日、小学生を教えている小学校の先生は、小学生のことはよく知っています。小学生はちよつと・・・となりがねません。地域には、幼児から大学生までのいろんな世代と、さまざまな立場で関わっている方々がたくさんいらっしゃいますので、ごく自然に広い視野から「9年教育」を考えていくことができるのではないかと期待しています。

烏山神社祭礼 9月23日・24日



今年のお祭り（23日）は、前日の猛暑から一転、土砂降りの雨で寒さに震えながらのお祭りになりました。当日の朝、烏山神社で「御霊」をお神輿に移す「御霊移し」の儀式の後、上町・中町・下町の3基のお神輿が連合巡行しました。

お神輿の一番前、お子さんを肩車して担いでいるのは、給田小のPTAで、お父さんの会（YAMATO）でも活躍されています。西澤和義さんです。西澤さんは、給田小の第22回の卒業生で、今年から、烏山神社上町奉賛会・青年部長、そして上町のお神輿の巡行責任者として、2日間に渡る神輿渡御を取り仕切られました。

24日の町内巡行には、土橋校長先生がご挨拶にみえました。地元のみならず、に促された土橋先生も、「上町」の半纏に袖を通し、お神輿を担ぎに加わりました。周りで見ていたキャラードからは、「ソイヤ、ソイヤ」と掛け声がかかり、大いに盛り上がりました。上町奉賛会の皆様、今年もありがとうございました。

給田町会 第60回入運動会 10月11日

毎年、地域の方に大人気の「給田町会の運動会」も今年で60回を迎えます。1年ごとに給田小学校と烏山小学校で交代に行われていて、今年は烏山小学校です。プログラムは、小さなお子さんからお年寄りまで楽しめる構成になっており、子どもたちは、一つの種目に参加するたびに、お菓子などの参加賞がいただけます。おとなも入賞すると、砂糖、味噌、醤油など、主婦にとって大変ありがたい「褒美がいただけます。そして、最後のお楽しみは、抽選会！自転車当たることもありま

す。秋の1日、お弁当を持って、ご家族皆さんで、参加してはいかがでしょうか？

毎年、企画・運営をしてくださっている町会役員、婦人部、青穂会の皆様、本当にありがとうございます。



今月のわんこ 第4号 清水 キッドくん



ミニチュア・ダックスフンド
オス6歳6カ月
性格：臆病で甘えん坊
食べることに大好き！
ただいま、闘病中で、わんわんパトロール(お散歩)はお休みしています。
皆さん、応援してくださいね。



給田六所神社例大祭



10月23日(土)
10月24日(日)

給田地域の神様が祀られている給田六所神社の例大祭が右記の日程で行われます。

緑の木々に覆われたお社、境内には、お囃子と大太鼓の音が響き、屋台でたこやきやわたあめを食べたり、射的をしたりと、お祭りですが味わうことのできない風情があります。

23日の宵宮では6時から神楽殿(神社境内)で空手の演武や子どもたちによるダンス、おとなのフラオケなどが行われます。給田小の子どもたちも、空手・ダンス・フラダンスなどで出演します。24日は子どもたちが山車を引っ張って町内を歩きます。どなたでも参加できます。給田六所神社に是非一度お運びください。

「童謡演奏」に出演希望の方がいらっしゃいましたら、10月3日までに運営委員の清水(5384 4720)まで。

地域で活躍する卒業生

日時	10月23日(土)
10月24日(日)	10:00-16:00
同日でも雨天決行	15:00-19:30
場所	北烏山もぐら公園

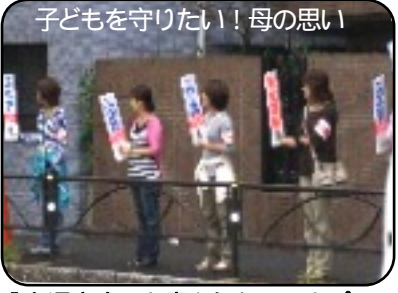
実行委員長 森田 慎一
(給田小学校第25回卒業生)
地域の子どもたちが育つ公園「給田小の学区内にある「もぐら公園」は、放課後の生徒たちの遊び場のひとつとしてにぎわっています。
子どもたち自身が企画して、自分たちのお店を開く、「子どものお店」、そしてそれを地域の

もぐら公園まつり

若者・おとなたちが支え、創りあげたお祭りも今年で8回目を数えます。

子どもたちの安全を願って！

9月28日に、甲州街道・給田交差点で、「交通安全」を呼びかけました。
昨年9月、この交差点で小学校の1年生の児童が、左折する大型車に巻き込まれて、即死するという悲惨な交通事故がありました。この呼びかけは、事故から1年を機に、二度とこのような事故を起こさないように、との願いを込めて行われたものです。
成城警察署交通安全課主導のもと、交差点近隣小・中学校の保護者、地域の協力団体、50名以上が参加して、交差点を通行する歩行者や自転車にチラシを配り、トラック・乗用車・二輪車のドライバーに横断幕やハンドプレートで安全運転を訴えました。



子どもを守りたい！母の思い
「交通安全」と書かれたハンドプレートで、運転手さんにアピールする給田小PTAのみなさん

参加者は、この痛ましい事故を決して忘れることなく、子どもたちの安全を守らなければならぬという思いを改めて強くしました。是非、それぞれのご家庭でも「交通安全」についてお子さまと話し合っていたきたいと思っております。

あとがき

秋は収穫の季節です。いろいろな地域で、五穀豊穣を祝い、「村の鎮守の神様」のお祭りが行われます。今年、私たち給田町会の有志のおとなたちで「お囃子」の練習を始めました。先生は、「給田小ごもばやし」の伊藤先生と、卒業生の高校生です。先日、老人ホームで、練習の成果を披露しました。演奏はまだですが、日頃味わうことのできない達成感がありました。六所神社の例大祭では、毎年「給田小ごもばやし」が演奏していますが、今年も「給田おとなばやし」も演奏します。お楽しみ(?)にも一つ、今年の目標としていることが「給田小学校同窓会」の立ち上げです。子どもたちから「お囃子」を学び、また一方では、給田小の子どもたちを見守る力になりたいと思っております。こうして、地域と給田小学校を繋ぐことが、私の役割だと感じています。地域のおとなは子どもを見守る、子どもは地域のおとなに安心感を持ち、お年寄りを大切に、そんな温かい地域になれば、と思っています。同窓会設立にあたり、卒業生の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

田中龍次

学校運営委員